

人工^A知能^Iと東洋学

第113回東洋文化講座 10/31(木)17:30~19:30

中国古代史研究における生成AIの利用について —課題と展望—

大知 聖子 氏 (名城大学理工学部・准教授)

2022年にChatGPTが公開されて以来、生成AIの発展は著しく、どの学問分野においてもその影響はもはや避けられない。本講演では文章生成AIの仕組みについて確認した上で、中国古代史研究において利用する場合はいかなる方法が考えられるか、また、歴史学研究に与える根本的な課題と展望について述べる。

第114回東洋文化講座 11/14(木)17:30~19:30

人文学におけるAIの可能性 —資料翻刻における事例—

橋本 雄太 氏 (国立歴史民俗博物館研究部・准教授)

歴史資料を用いた研究にもさまざまな形でAIが活用されるようになってきた。一方でAIの躍進は、学芸員や研究者といった専門家、また歴史資料の保存継承に携わる市民の方々の重要性を浮き彫りにしている。本講演では、歴史資料の市民参加型翻刻プロジェクト「みんなで翻刻」を事例にして、人文学におけるAIと専門家、市民の役割について考えてみたいと思う。

第115回東洋文化講座 11/27(水)17:30~19:30

生成AIを利用した日本古典文学研究 —和文と漢籍—

近藤 泰弘 氏 (青山学院大学・名誉教授)

チャット形式でいろいろな問いに答えてくれる生成AIが話題である。しかし、生成AIは、それだけのものではなく、その持っている内部の知識を取りだして使うことで、文学・語学に広く応用が可能である。本公演では、その方法を用いて、日本の平安時代における『源氏物語』や『古今集』といった和文と、『和漢朗詠集』等に見られる漢詩文とをAIの内部知識を用いて比較することで、従来知られていなかった類似性や引用関係を提示できることを示してみたい。

開催形式
ハイフレックス型
にて開催



学習院大学東洋文化研究所

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1(学習院大学 北1号館4階)

■JR山手線目白駅 徒歩1分

TEL:03-5992-1015 FAX:03-5992-1021

E-mail:ori-off@gakushuin.ac.jp

URL:<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/index.html>

